

東濃社会教育だより No17

-研修・地域学校協働活動編-



恵那県事務所
振興防災課 振興防災係
社会教育担当:長瀬
〒509-7203
恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL:0573-26-1111 内線 208

地域学校協働活動推進員研修会後期の2回目の様子から



研修会の様子

日時：12月10日（火）

場所：恵那総合庁舎

講師：岡山市教育委員会生涯学習部

生涯学習課公民館復興室主査

内田 光俊 氏

内容：地域学校協働活動の企画・立案

手法を学ぶ

県と岐阜大学が共同で運営する「ぎふ地域学校協働活動センター」による研修会後期の2回目が開催されました。

今回は、地域学校協働活動を企画するために必要となる様々なシート(SWOTシート等)の紹介と、企画シートを使用して、実際に自分が行いたいと考える計画を立てる実践的な研修でした。

【事業企画づくりの流れ】

- 1 子どもの育ちの状況やその育ちに関わる地域(学校)の状況を知る
- 2 この事業への思いをまとめる
- 3 これまでの取組を確認する
- 4 企画会議に集めたい人や組織、団体を洗い出す
- 5 達成したいこと(目的)をまとめる
- 6 どんなインパクトを地域や学校に与えたいのか明確にする
- 7 そのためにやるべきこと(課題)を明確にする
- 8 事業のコンセプト(企画の趣旨)と目標をまとめる
- 9 この事業のために使える資源やステークホルダー(利害関係者)を確認する
- 10 プログラムを作成する
- 11 想定する成果(アウトカム)の設定をする
- 12 アンケートを作成する
- 13 評価のやりかた(評価対象や内容)を明確にする

内田氏から「具体的な目標を設定すること」というアドバイスを受けながら、受講者は、20分かけて、独自のプログラムを作成しました。その後、事業への思いを伝え、互いに意見交流を行いました。

実際にプログラムを作成したことで、企画運営におけるノウハウを学ぶことができました。

【講話内容 抜粋】

■持続可能な社会づくりの

担い手に求められる能力や態度

- 1 批判的に考える力
- 2 未来像を予測して計画を立てる力
- 3 多面的、総合的に考える力
- 4 コミュニケーション能力
- 5 他者と協力する態度
- 6 つながりを尊重する態度
- 7 進んで参加する態度

■企画のポイント

時代性：今だから必要とされていることは

分野性：その分野で何が起きているか、その状況や流れなど

地域性：この地域でやるからこそその強みと弱み

組織性：自分たちの組織・グループの強みと弱み

魅力性：取組は人々(子どもたち)に認められるが、魅力があるか

■岡山市の公民館のESD7つのポイント

ESD (Education for Sustainable Development)

「持続可能な開発のための教育」

- 1 問題を他人事(ひとごと)ではなく、自分事にする。
- 2 教える・教えられる関係ではなく、学び合う関係。
- 3 どんな未来にしたいか考えるために、過去から現在を見直す。
- 4 取り組みたい人は企画運営から参加できる。
- 5 目指すのは、地域で持続可能な社会づくりができる人が育つこと。
- 6 知っただけでは社会は変わらない。問題を解決するために小さくても行動する。行動を変える。
- 7 一人ではできないことも誰かと一緒だとできる。楽しくできる。

自分とふるさとを愛する子を育てる「岩村プラン」が、「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰に！

恵那市立岩邑小学校と岩邑中学校は、学校運営協議会が、ハブとなり、岩村地域自治区と学校が連携し合うことで、将来にわたって「自分とふるさとを愛する子」を育てる岩村プランを推進してきました。(詳しくは「東濃社会教育だよりNO13」参照)

令和元年12月2日に文部科学省で開催された表彰式には、NPOいわむら一斎塾(佐藤一斎顕彰会長)の鈴木隆一氏と恵那市立岩邑小学校の吉村良校長が、代表として参加されました。

岩邑小中学校以外にも、活発に地域学校協働活動が行われています。「ぎふ地域学校協働活動センター」が行う研修会には、4名の三学塾 塾長(コミュニティセンター長)が受講し、学校と地域のパイプ役として活躍できるように研修されています。

「地域学校協働活動」

文部科学大臣表彰とは

文部科学省では、地域全体で次代を担う子供たちを育成するために、地域と学校が連携・協働し、地域の教育力の向上を図り、社会総掛かりでの教育の実現を目指すことを支え、地域を創生する活動(地域学校協働活動)のうち、その内容が他の模範と認められるものに対して、文部科学大臣表彰を行っています。

地域学校協働活動推進員研修会後期の3回目の様子から



白川郷学園
早川先生小林先生

日時：1月14日(火)

場所：恵那総合庁舎

講師：白川村教育委員会事務局 社会教育主事 新谷 さゆり 氏
日本女子大学 教授 田中雅文氏

内容：地域学校協働活動の実際を学び、地域学校協働活動推進員の使命や役割を理解する。(講義+質疑応答)

新谷氏からは、学校や地域の「受け身的な活動」を、共通の願い(目的)を見つけ出し自分事として取り組む活動に転換した、白川村の歩みについて学びました。

今ある団体をうまく活用し、共通の願いに向けて、学校・地域・家庭が取り組むことを役割分担することや、各学年に専属コーディネーターを配置することは、推進員として活動する上で、活かせる内容でした。



研修会の様子

【講話内容 抜粋】

新谷氏の話から7つの伝言メッセージ(田中氏より)

- 1 何のための学校か(大人が将来の担い手である子どもたちを責任もって育てていくことが必要)
- 2 子どもを核としたコミュニティ・スクール(白川村では、学校が核ではなく子どもを核と考える)
- 3 村民学(村民憲章をベースにした学習)
- 4 ふるさとアドバイザー
(教育のプロ「教師」と地域のプロ「地域住民」で子どもを村の民として育てる)
- 5 村全体がキャンパス(村全体が生きる場、学ぶ場)
- 6 村民の68%(23~80歳)が全員関わる工夫(誰でも関われるちょっとした役割をつくる)
- 7 社会教育の活性化(社会教育をネットワークにして活性化を図っている)